

医療的ケア児およびその家族における歯科受診の実態と課題：大規模診療報酬データベースを用いた調査研究

北海道大学大学院歯学研究院予防歯科学教室 助教
佐藤 美寿々 氏

研究の背景

医療の進歩に伴い、人工呼吸器や経管栄養などの日常的な医療的ケアを必要とする医療的ケア児の数は増加している。日本でも在宅の医療的ケア児は約2万人と推計され、この15年で約2倍に増加しているとの報告がある。医療的ケア児は健常に発達する子どもと比べて、う蝕、歯肉疾患、口腔疾患のリスクが高く、適切なケアが行われない場合には誤嚥性肺炎や全身性の感染症など重大な合併症を引き起こし得る。また、そのケアを担う家族については、心身の不調を感じやすい一方で自身のケアが不十分になる傾向が知られており、とりわけ後回しにされやすい口腔の健康に影響を与えている可能性がある。しかし、日本において医療的ケア児およびその家族の歯科受診状況は十分に把握されていない。

目的

本研究では全国規模の診療報酬データベースを用い、医療的ケア児とその家族における歯科受診状況および歯科訪問診療・予防的ケア・早期介入・重症化後の受診と

いった受診パターンを分析し、口腔管理の実態を包括的に評価することを目的とした。加えて、呼吸器使用の有無に基づき層別化を行い、より介護負担の重い家庭の状況を把握する。本研究により、医療的ケア児とその家族が抱える口腔の健康管理上の課題を具体的に把握し、両者への適切な歯科受診支援に資する基礎資料を提供することを目指す。

方法

JMDC Claims Database (JMDC株式会社、東京) を用い、2021年4月から2022年3月までを研究期間とする横断研究を実施した。先行研究¹を元に、診療行為コードを用いて18歳以下の医療的ケア児を同定し、家族IDにより家族を連結した。医療的ケア児とその家族、および18歳以下の小児とその家族(一般集団)について歯科受診、予防的ケア、歯科訪問診療、各種歯科処置の算定割合を記述した。医療的ケア児については人工呼吸器使用の有(R+)無(R-)で層別化した。

1 厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業(身体・知的等障害分野) 医療的ケア児に関する実態調査と医療・福祉・保健・教育等の連携促進に関する研究 平成30年度総括・分担研究報告書.

表1

18歳以下の医療的ケア児および一般の小児における歯科受診状況

処置	合計	医療的ケア児 (n=2,866)	一般の小児 (n=2,743,279)
歯科受診 (初診料・再診料)	1,162,476 (42.3)	1,557 (54.3)	1,160,919 (42.3)
予防処置			
歯科疾患管理料・歯科衛生実地指導料	949,053 (34.6)	1,189 (41.5)	947,864 (34.6)
歯周病治療	1,015,215 (37.0)	1,174 (41.0)	1,014,041 (37.0)
う蝕予防処置	338,429 (12.3)	381 (13.3)	338,048 (12.3)
歯科訪問診療			
歯科訪問診療料	332 (0.0)	196 (6.8)	136 (0.0)
歯科疾患在宅療養管理料	192 (0.0)	114 (4.0)	78 (0.0)
小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料	66 (0.0)	66 (2.3)	0 (0.0)
在宅患者歯科治療時医療管理料	7 (0.0)	7 (0.2)	0 (0.0)
訪問歯科衛生指導料	178 (0.0)	111 (3.9)	67 (0.0)
口腔リハビリテーション			
摂食機能療法	631 (0.0)	193 (6.7)	438 (0.0)
障害児 (者) リハビリテーション料	104 (0.0)	7 (0.2)	97 (0.0)
一般歯科処置			
抜髓 (歯髓切断を含む)	30,321 (1.1)	17 (0.6)	30,304 (1.1)
感染根管処置	27,715 (1.0)	10 (0.3)	27,705 (1.0)
抜歯手術 (乳歯)	156,542 (5.7)	273 (9.5)	156,269 (5.7)
抜歯手術 (永久歯)	13,945 (0.5)	10 (0.3)	13,935 (0.5)
充填、インレー形成	421,305 (15.3)	240 (8.4)	421,065 (15.3)
歯冠形成	13,262 (0.5)	10 (0.3)	13,252 (0.5)

カテゴリ変数は n (%) で示した。

結果

2021年度に医療的ケアを受けた児は2,866人、うちR+は701人であった。年1回以上歯科受診していたのは医療的ケア児の54.3%、一般小児の42.3%だった。歯科訪問診療は医療的ケア児の6.8% (R+の18.8%) が利用していた。乳歯抜歯については、R+11.1%、R-9.0%、一般小児の5.7%に算定されていた一方で、う蝕関連処置につ

いて、医療的ケア児は一般小児の概ね半分程度の算定にとどまっていた。

家族においては、R+家族の46.3%、R-家族の47.3%、一般集団の37.9%が年1回以上歯科受診をしていた。医療的ケア児の家族は予防的ケアを多く受けていた一方で、重度のう蝕治療や永久歯抜歯についても一般集団より高頻度で算定されていた。

表2

人工呼吸器使用有無別の医療的ケア児における歯科受診状況

処置	合計	人工呼吸器 使用児 (n=701)	人工呼吸器 非使用児 (n=2,165)
歯科受診（初診料・再診料）	1,557 (54.3)	330 (47.1)	1,227 (56.7)
予防処置			
歯科疾患管理料・歯科衛生実地指導料	1,189 (41.5)	255 (36.4)	934 (43.1)
歯周病治療	1,174 (41.0)	246 (35.1)	928 (42.9)
う蝕予防処置	381 (13.3)	85 (12.1)	296 (13.7)
歯科訪問診療			
歯科訪問診療料	196 (6.8)	132 (18.8)	64 (3.0)
歯科疾患在宅療養管理料	114 (4.0)	71 (10.1)	43 (2.0)
小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料	66 (2.3)	50 (7.1)	16 (0.7)
在宅患者歯科治療時医療管理料	7 (0.2)	5 (0.7)	2 (0.1)
訪問歯科衛生指導料	111 (3.9)	75 (10.7)	36 (1.7)
口腔リハビリテーション			
摂食機能療法	193 (6.7)	55 (7.8)	138 (6.4)
障害児（者）リハビリテーション料	7 (0.2)	1 (0.1)	6 (0.3)
一般歯科処置			
抜歯（歯髄切断を含む）	17 (0.6)	2 (0.3)	15 (0.7)
感染根管処置	10 (0.3)	2 (0.3)	8 (0.4)
抜歯手術（乳歯）	273 (9.5)	78 (11.1)	195 (9.0)
抜歯手術（永久歯）	10 (0.3)	2 (0.3)	8 (0.4)
充填、インレー形成	240 (8.4)	31 (4.4)	209 (9.7)
歯冠形成	10 (0.3)	4 (0.6)	6 (0.3)
年2回以上の定期歯科受診	1,139 (39.7)	288 (41.1)	851 (39.3)

カテゴリ変数は n (%) で示した。

考察

医療的ケア児は一般集団に比べて歯科受診、予防的歯科受診、乳歯抜歯の割合が高かった。医療的ケア児における歯科受診の重要性について、一定程度の普及が進んでいるものと考えられる。一方で、R+はR-より歯科受診割合が約9%ポイント低く、歯科外来への受診障壁や、歯科訪問診療を中心とした満たされない歯科需要があるものと考えられる。医療的ケア児の家族は、一般集団と

比べて歯科受診、予防的歯科受診および重度う蝕治療の割合が高かった。医療接点の多さによる受診促進、家族内での受診行動の同調の影響の一方で、介護負担に起因してブラッシングや不規則な生活、食生活などの日常の自分のケアが不十分となることによる重症化が示唆される。医療的ケア児の地域移行時における歯科評価の導入や病院—地域—在宅を結ぶ連携経路の明確化、在宅歯科診療提供体制の拡充、家族に対しては介護負担の軽減や親子同日受診できる環境整備等が求められる。

表3

医療的ケア児の家族および一般の小児の家族における歯科受診状況

処置	合計	医療的ケア児の家族 (人工呼吸器非使用) (n=5,885)	医療的ケア児の家族 (人工呼吸器使用) (n=1,938)	一般小児の家族 (n=5,566,500)
歯科受診 (初診料・再診料)	2,115,654 (38.0)	2,781 (47.3)	897 (46.3)	2,111,976 (37.9)
予防処置				
歯科疾患管理料・歯科衛生実地指導料	1,813,579 (32.5)	2,397 (40.7)	790 (40.8)	1,810,392 (32.5)
歯周病治療	1,865,076 (33.5)	2,444 (41.5)	808 (41.7)	1,861,824 (33.4)
う蝕予防処置	345,394 (6.2)	348 (5.9)	123 (6.3)	344,923 (6.2)
歯科訪問診療				
歯科訪問診療料	579 (0.0)	2 (0.0)	2 (0.1)	575 (0.0)
歯科疾患在宅療養管理料	262 (0.0)	2 (0.0)	2 (0.1)	258 (0.0)
小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料	22 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	22 (0.0)
在宅患者歯科治療時医療管理料	18 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	18 (0.0)
訪問歯科衛生指導料	208 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.1)	206 (0.0)
口腔リハビリテーション				
摂食機能療法	491 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	490 (0.0)
障害児(者)リハビリテーション料	99 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	99 (0.0)
一般歯科処置				
抜髓(歯髓切断を含む)	102,841 (1.8)	183 (3.1)	65 (3.4)	102,593 (1.8)
感染根管処置	99,712 (1.8)	174 (3.0)	57 (2.9)	99,481 (1.8)
抜歯手術(乳歯)	156,988 (2.8)	168 (2.9)	53 (2.7)	156,767 (2.8)
抜歯手術(永久歯)	112,982 (2.0)	200 (3.4)	60 (3.1)	112,722 (2.0)
充填、インレー形成	864,567 (15.5)	1,235 (21.0)	397 (20.5)	862,935 (15.5)
歯冠形成	166,419 (3.0)	287 (4.9)	85 (4.4)	166,047 (3.0)

カテゴリ変数は n (%) で示した。

結論

全国規模の診療報酬データベースを用いた分析により、医療的ケア児は一般小児より歯科受診割合が高く、予防的ケアと乳歯抜歯の実施が多いこと、人工呼吸器使

用児では歯科訪問診療の必要性が高い一方で未受診が依然多いこと、医療的ケア児の家族は予防的ケア受診が多いが重度う蝕治療も多いことが明らかになった。今後は国内の満たされない歯科需要についての実態把握や、介護者の口腔の健康がネグレクトされない支援制度を含む家族単位の口腔保健政策の推進が必要であると考える。